

3カ月前



????????????

1970年に発売された、ニッティー・グリッティー・ダート・バンドのアルバム「アंकル・チャーリーと愛犬テディ」これをはじめ聴いたのは、まだハイスクールに入ったばかりの頃だった。平ん平んなロックの時代にすごくフレッシュな音が吹いてきたような新しいサウンドだった。1970年はレッド・ツェッペリンとディープ・パープルの年でもあったからね。ハイスクールのダンスでは誰も彼らニッティーの曲を演奏してくれなかった。シングルカットされた「ミスター・ボーゼンゲル」はキャッチーなポップだったが、ちょっとカントリーなテイストも入っていた。ワルツのビートだからチークにはぴったりなんだけど、△やっついては悪ねほのたんだらう。

今はもうどこでたっかバツキリとは覚えていないけど、ずっと前山だったと思う。70年代、無慮に住んでる時のことだ。日本にニッティー・グリッティー・ダート・バンドが2回目に来た時、友達がかこう言った。知り合いがコンサート会場で働いているから、見に行こうぜ。やった、フリーパスだ！ そう思った。俺はその前の年に見たことがあって大ファンだったから、もちろんふたつ返事。鎌倉から電車とバスを乗り継いでやっと会場につくと、突然、こっちだといわれて会場ではないところに連れていかれた。楽屋に入れてくれるのか、サイン用にアルバムを持ってくればよかったな、そんなふうにならないうちに、楽屋ではなくて、会場の横にある小さい小屋に連れて行かれた。そして友達がかこう言った。「ここなら誰も見えないから、フェンスを登ってライブを見よう！」ま、まさか〜！ 楽屋どころか、客席どころか、俺の前はなんとフェンスの上だった。が、しかし、ライブは最高だった。ステージはプールサイドで、バックは海。こんな気持ちいいレシチュエーションはない。俺は当然のようにプールに入り、時には泳ぎながら、時には泳がんで、彼らのライブを気の赴くまま楽しんだ。不思議にプールにはほかにも人が泳いでいるかと思ったら、朝かい夜の夜だったのね。しかし、今思えば、泳ぐこと自体あり得ないことだったのかもしれない。誰も文句はいわないのをいもことに、俺は思い切り楽しんだけど。

ところで、このアルバムはニッティー・グリッティー・ダート・バンドの一番いいアルバムだと俺は思う。もちろんヒット曲のジェリー・ジェフ・ターカーのカバーの「ミスター・ボーゼンゲル」も入っているが、そのほかにケニー・ロボソズの「プー横断の家」も、モンキーズのマイケル・ネズミスの「近視」、パディ・ホリーの「レーブ・オン」、ランディー・ヌーマンの「リビング・ウィズアウト・ユー」も納められている。彼らはアメリカのバンドにしては珍しく、自分達のオリジナル曲は数少なく、他のミュージシャン達の曲をカバーしている。バンド結成当時はジャクソン・ブラウンもメンバーだったから、もし彼がそのままバンドを続けていれば、きっとオリジナルのヒット曲も出ただろう。とはいえ、彼らはカバーの仕方が何にうまい。彼らがカバーすると、ポップなテイストになって、自然にハミングができるような仕上がりになる。このアルバムはアメリカのルーツミュージックをロックとうまく合わせてできたものだ。カントリー、ブルーズ、ポップ、ロックンロールをうまくブレンドしている。それまでさまざまなロックバンドがこの感じでアルバムを作ってきたが、これほどうまく、自然にできたものはない。

今でも、プールサイドでこんな感じのバンドを見たいとよく思う。あのプールサイドのライブから、もう30年以上が経つ。俺の体重は30キロ以上増えている。もう皆さんがたたくさん見ている前で、プールに飛び込んで泳ぐ気はないな。たとえ40キロやせたとしても、恥づかしさが先になつ。苦いって、すこいね。でも、本当にニッティーが来たら、嬉しくてプールに飛び込んで泳ぐかもしれないな。

①
が全盛

②

③



ARTIST: The Notorious B.I.T. Band
ALBUM TITLE: Uncle Charlie
LABEL: WARNER BROS./CBS
NUMBER: 77979
RELEASE DATE: 1977

PROFILE

ジョージ・コックル

1958年鎌倉生まれ。日本人で日本育ちの映画好きとアメリカ人でロックマンの父を持つ音楽家時代の父と、トリス・ケネディ・結婚で渡米。小学3年生でビートルズに感銘し、LAで制作するサーフサウンドで活動するサーフ・バンド。この音楽が彼が後の人生を決定的なものとして、日本での学生生活の最後、海外のバンドを結成することを決意し、ハワイ経由でサンフランシスコに移住。16年渡米後、LAに帰国。1986年帰国後、立ち上げ音楽制作会社「ミュージック・プロダクション」を設立。日本のミュージック・シーンに「Tommy Stinson」などを輩出。音楽プロデューサー、コラムニスト、作曲家「レッド・ホット・チリ・ペッパーズ」などとして、2008年の夏に13年ぶりの来日。音楽制作の会社「ウクレレ・マレー・バンド」を立ち上げ、音楽制作の会社と文化と人間関係を築き、数々の日本と世界を結ぶ機会に恵まれている。今年も「ジョージ・マレー」を立ち上げ、ツアーとして来日予定が噂されている。

住所: インター-PH 17E-01 有楽町線日 9:00 - 1:00 レイヴン・クラブを運営。

SHOEN BEACH FM 75.3
STARBUCK COFFEE
Thru 8-1300